

「放送用周波数の活用方策に関する検討分科会 放送用周波数の活用方策に関する取りまとめ
(放送大学の地上放送跡地及びV-Low帯域) (案)」に対する意見

| ページ番号 | 該当箇所 | 意見 |
|-------|---|--|
| 5ページ | 2. 放送大学の地上放送跡地の活用方策 (1) 地デジ放送跡地 ③ 活用方策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 放送大学の地上テレビ放送跡地については、放送の公共的な役割を踏まえ、安定的な事業主体による国民・視聴者の福祉の向上や社会課題の解決に資する活用方策の実現が望まれます。 ● 今後、国民・視聴者のニーズや関係者の意見を踏まえ、実施主体や事業スキームを含めた具体的な活用方策の検討が進められることを期待します。当連盟も、必要に応じて意見を述べ、適切な活用方策が実現するよう議論に寄与してまいります。 |
| 10ページ | 3. V-Low帯域の活用方策 (2) FM放送用周波数の拡充 ① 活用方策の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ● FM放送用周波数の今後の需要増加が見込まれる旨の指摘は妥当なものと考えます。周波数の需要を正確に把握するためには、AM放送からFM放送への転換に向けた令和5年からの「実証実験」だけでなく、図8に列挙された「今後検討すべき主な課題」の各項目への令和10年までの取り組みを踏まえることが欠かせませんので、その旨を本案に明記いただくよう要望します。 |
| 11ページ | 3. V-Low帯域の活用方策 (2) FM放送用周波数の拡充 ② 活用方策 | <ul style="list-style-type: none"> ● V-Low帯域の一部をFM放送用周波数の拡充として利用することが適当との提言について基本的に賛同します。ただし、「今後検討すべき主な課題」(図8参照)についても十分に留意したうえで具体化していくことが必要と考えます。その旨を、本案に明記いただくよう要望します。 ● リスナーの利便性に配慮する観点から、利用する帯域は現行のFM放送用周波数と隣接する帯域であることが必要です。 ● 今後の活用方策の検討に際しては、各地域のAM放送事業者およびFM放送事業者の意見を丁寧に汲み取りながら検討を進めていただくことを要望します。 |

以上